

平成27年度全道ホームヘルプサービス研究大会 開催要綱

主催：北海道ホームヘルプサービス協議会 / 後援：北海道

1. 趣 旨 高齢者の尊厳保持と自立生活への支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の実現に向けて、ホームヘルプサービスには大きな期待が寄せられています。
- 一方で、国が平成27年度の介護保険制度改正により、介護予防訪問介護を地域支援事業へ移行することに伴い、ホームヘルプサービスに大きな影響を与えることが予想されます。
- そこで、本研究大会は、在宅介護の現場でより良いサービスが展開できるよう、高齢者の転倒予防について理解を深め、また自らの介護技術について振り返るとともに、ホームヘルプサービスに必要な技術と知識の向上を図ることを目的に開催します。

2. と き 平成27年7月16日（木） 13:30～17:00（受付12:30）
平成27年7月17日（金） 9:15～11:50

3. と ころ 北海道自治労会館 5階大ホール他
（札幌市北区北6条西7丁目6-3 TEL：011-747-1457）

4. 参加定員 300名
※申し込み多数の場合は、ホームヘルプサービス協議会会員を優先させていただきます。

5. 参加費 ・北海道ホームヘルプサービス協議会会員・準会員 3,000円
・上記以外の方 6,000円
※参加費は当日受付でお支払い願います。

6. 日 程

	12:30	13:30	13:40	15:10	15:20	17:00	17:10	18:00
7月16日 (1日目)	受付	開会	講演Ⅰ	休憩	講演Ⅱ	休憩	総会 (会員のみ)	
	9:15	11:45	11:50					
17日 (2日目)	分科会	閉会						

7. 内 容

〔1日目：7月16日（木）〕

(1) 開 会 (13:30～13:40) 開会挨拶

(2) 講演Ⅰ (13:40～15:10) <90分>

「在宅における高齢者の転倒予防の視点について」

高齢者にとって、転倒などによる骨折の怪我は寝たきりの原因にもなるので、転倒しないよう注意しなければなりません。

ここでは、在宅生活における転倒の要因と転倒防止・予防の視点などについて考えます。

講師：杉本 寿司氏（KKR札幌医療センター斗南病院 理学療法士）

(3) 講演Ⅱ (15:20～17:00) <100分>

「実践者の介護行為を“見える化”から“見せる化”へ」

利用者本位のサービスを提供する上で、自らの介護行為を「見える化」や「見せる化」することは、利用者や家族への信頼や安心につながります。

ここでは、自らの介護行為を見つめ直すとともに、今後の介護行為のあり方について考えます。

講師：篠崎 良勝氏（聖徳大学 心理・福祉学部社会福祉学科 准教授）

【講師紹介】篠崎 良勝 (しのざき よしかつ) 氏

1969年生まれ 茨城県出身。筑波大学大学院(教育研究科・障害児教育専攻)修了。民間シンクタンクにて自治体の介護保険計画など計画策定業務担当。その後、民間病院問題研究所(現・ヘルスケア総合政策研究所) 主席研究員として介護労働に関する調査研究を担当。平成14年4月から介護情報誌「かいごの学校」(日本医療企画) 初代編集長。平成17年4月から八戸学院大学人間健康学部専任講師。現在は千葉県松戸市にある聖徳大学(准教授)で福祉職の養成に携わっている。平成20年から平成26年まで毎年6月に八戸学院大学にて介護従事者を対象とした研修会『かいごの学校』を主宰していた。専門は介護労働学、福祉社会学。研究領域は介護従事者の視点からみた現状、課題に関するアンケートを通して現場の抱える課題を浮き彫りにし、その解決に関する手法等の考案。

<著書(共著、監修等)>「介護事故」(単著)日本医療企画 2000年、「どこまで許される?ホームヘルパーの医療行為」(編著)一橋出版 2002年、「介護労働学—ケア・ハラスメントの実態を通して—」(単著)一橋出版 2008年など、その他多数あり。

[2日目: 7月17日(金)]

(4) 分科会(9:15~11:45)

○第1分科会(講義・演習)「サービス提供責任者に求められる役割について」

サービス提供責任者は、訪問介護計画書の作成をはじめ、利用者への説明やアセスメントを推進するうえで極めて重要な役割を担う一方、ホームヘルパーの管理など業務は多岐にわたっています。

ここでは、サービス提供責任者の役割を再認識し、質を高めるために求められる役割について学びます。

講師: 七戸 キヨ子氏

(北海道ホームヘルプサービス協議会 副会長/株式会社シムス 取締役・はばたき事業部長)

○第2分科会(講義・演習)「低栄養にならないための栄養学」

身体状況や嗜好、食習慣も個人差の大きい高齢者の栄養を考慮しながら、食の自立を支援する力量がホームヘルパーに求められています。

ここでは、低栄養にならないための栄養学のポイントや、食事形態などについて学びます。

講師: 齋藤 郁子氏(日本栄養士会 日本在宅栄養管理学会認定 在宅訪問管理栄養士/

北海道介護福祉学校 非常勤講師・専門学校日本福祉学院 非常勤講師)

○第3分科会(講義・演習)

「対人援助の基礎~コミュニケーション技術をとおして」

介護現場においては、利用者や家族とサービスを提供する介護者との間によりよいコミュニケーション、いわゆる意思の疎通が図れて、初めてよい対人援助関係が成立します。利用者の尊厳を支え、希望や可能性を実現するためには、利用者をよく理解し、利用者との信頼関係を作ることが必要です。

ここでは、ホームヘルパーに求められる利用者、家族とのコミュニケーションや事業所内での職員、また関係者とのコミュニケーションのあり方について学びます。

講師: 岩館 誠氏(医療法人社団誠医会 よつばクリニック 地域連携室 医療ソーシャルワーカー)

(5) 閉会(11:45~11:50) 分科会ごとに閉会

8. その他

1日目のプログラムの「講演II」終了後、平成27年度北海道ホームヘルプサービス協議会代議員総会を開催します。なお、総会につきましては、別途会員事業所あてに御案内申し上げます。

9. 参加申込みについて

別添<参加申込書兼アンケート>に必要事項を御記入の上、**平成27年7月6日(月)【必着】**までに下記あてに、FAXにてお申し込みください。(尚、定員になり次第締め切りとさせていただきます。参加をお断りする場合もしくは希望の分科会を変更して頂く必要がある場合のみ、7月9日(木)までに、お電話等にて御連絡いたしますので、予め御了承ください。)

北海道ホームヘルプサービス協議会 事務局

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 北海道社会福祉総合センター2階

北海道社会福祉協議会・地域福祉部地域福祉課内(担当:鈴木・三浦)

Tel 011-241-3977 Fax 011-271-3956

